

「戦陣訓」上演に就て

白井松次郎

陸軍大臣閣下の御垂示に相成りました「戦陣訓」は非常に結構な御文章と拜しまして曩に弊社關係方面の一同に配付いたし謹んで御趣旨を服膺いたして居りますが此度陸軍記念日を機會に所屬各劇場に於きましても此本旨をそれらの機構に織り込みまして御觀客様の御一燦に供することゝいたしましたが當座に於きましても又日本固有の傳統に根ざしまする藝術の本位に合致いたします爲めに此度「戦陣訓」の本訓を一々歴史の事實に照し新作曲をいたし文學獨得の機構によつて皆様の御批判を仰ぐことゝ相成りましたが何分早急の準備で充分の事は御期待に添はないまでも職域奉公の一端を果し得ますれば誠に幸ひと存する次第でございます

戦陣訓

四ツ橋畔

文樂座

西 亭謹作詞符
大塚克三舞臺裝置

戰陣訓 十二景

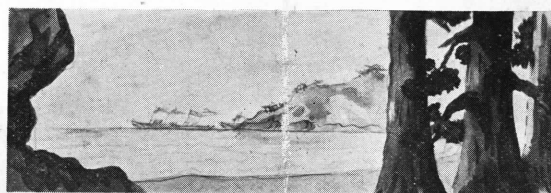


第一景 天の岩戸 (國皇)

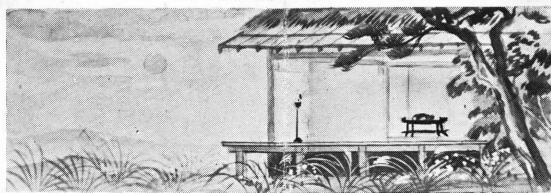


第四景 高津の宮 (行躬先率)

第一景 天の岩戸
 一億國民の遠く神代の昔より八紘
 一宇の御聖徳若戸神樂に黎明の
 光尊く。
 第二景 美々津濱御船出
 仁武の道。御船出征くは正しき
 仁武の道。
 第三景 檀原神宮
 金鶏の光かやきて恩威になび
 る青人草、幾千代よろづ榮え繁
 申すもおろか檀原の皇紀の始
 第四景 高津の宮
 かしこけれ賤が伏家の民草の
 幸、おぼし召し高きやに登りて
 見れば煙立つ民のかまどは賑ひ
 のにけり御仁慈あつき御徳の高
 津の宮ぞ。



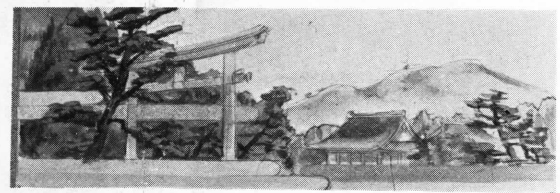
第二景 美々津濱御船出 (軍皇)



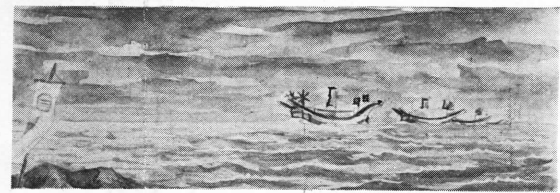
第五景 菅公配所 (白深廉清)

第五景 菅公配所
 有難や去年の今夜清涼に待す恩
 賜の御衣の今此に延喜如月月影
 の清き心の道實が延喜如月月影
 の世に皇恩尊き太宰の宮。
 第六景 元寇の役
 築業築前多々良濱元軍籠ふ國難
 にお固く結び日の本の國民水草
 となりし幾十萬是ぞ神國無双心
 皇運無窮ぞ尊けれ。

第七景 楠公櫻井の驛
 父の訓しに忍び音渡らす一時雨は
 葉の十せ三つの朝四條暖のあづ
 さ弓無き数に入る。
 第八景 義士の討入
 名をとむむいろは匂える四十七
 今ぞとけ行く朝雪の思ひは千々
 に亂るとも一つ心にとけ落ちて
 本望とぐる泉岳寺。



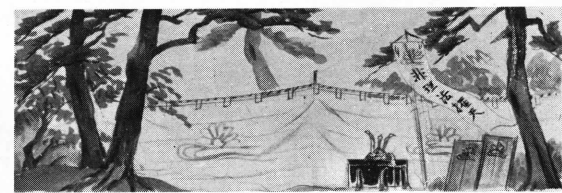
第三景 檀原神宮 (神敬・紀軍)



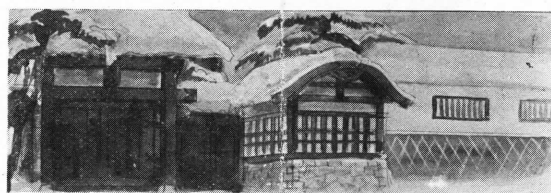
第六景 元寇の役 (結團)

第九景 二宮金次郎
 煙は絶えぬ二宮の社と共に徳尊
 き幼き委金次郎柴刈山も破れ瀬
 戸の月もるかべもいとひなる
 雪爰に實を結び尊徳翁と仰がる
 もたゆみ無き身の心なり。
 第十景 旅順二〇三高地
 たゆみ無き身の心を實に忘ら
 れぬ心の魂爾山頂風寒く幾千
 哉涙も水る身も英魂爰に幾千
 萬か我攻撃の精華こそ世界に冠
 す寶なれ。

第十一景 日本海々戦
 我必勝の信念を今ぞ現す日本海
 興國努力せよ世界不朽の海軍史
 奮闘努力せよ世界不朽の海軍史
 千古未曾有の戦捷史勝つて兜
 緒をしめめん。
 第十二景 國民總進軍
 いざ國民よ進軍だ皇恩正義の防
 課に心をしめよ一億民正義の防
 訓の日本にいざ國民よ團結だ戦
 正義の民の日本人。



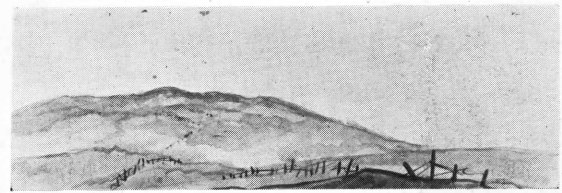
第七景 楠公櫻井の驛 (道孝)



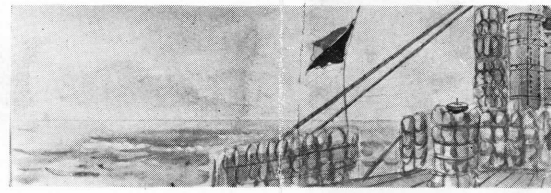
第八景 義士の討入 (觀生死・同協)



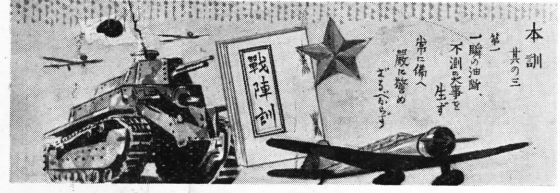
第九景 二宮金次郎 (壁剛實賢)



第十景 旅順二〇三高地 (神精撃攻)



第十一景 日本海々戦 (念信の勝必)



第十二景 國民總進軍 (謀防) 軍進總國民 景第二十第